

2004年に公開された映画「パッション」(監督:メル・ギブソン)をご存知でしょうか。10数年前の映画ですが、世界中に大きな衝撃を与えました。

「パッション」という単語自体は、情熱や激情などという意味を持ちます。しかしキリスト教の中では、イエス様が受けた十字架上の苦しみと死を意味する「受難」を指す言葉として、使われています。

イエス様はいろいろな場所で宣教し、またたくさんの人たちに寄り添って歩いていかれました。しかしその最終的な目的地はエルサレムであり、その地で逮捕され十字架の死を迎えることで、イエス様の地上での生涯は終わりを迎えたのです。

マタイ・マルコ・ルカの三つの福音書には、それぞれ三度ずつ「受難予告」が書かれています。イエス様は周りの人たちに、ご自分が「エルサレムに行って、多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっている」ことを伝えていました。そのときにイエス様は、「～することになっている」と言われます。その言葉は神さまの意思をあらわすものです。つまりイエス様の受難は、神さまのご計画であったわけです。

イエス様は十字架につけられ、墓に葬られ、そして三日目に復活されました。その血とよみがえりによって、わたしたち一人一人は神さまの前に生きる者とされるのです。イエス様の十字架にはさまざまな意味がありますが、その一つに「十字架の血によって、わたしたちの罪が贖われた」というものがあります。罪を贖う犠牲のために、イエス様は十字架の上で血を流されたのです。

そして復活し、世の終わりまでわたしたちと共にいる。そのことを可能にするために、神さまはイエス様を遣わし、受難へと向かわせたのです。

次回は「受肉」です。楽しみに。



「十字架上のキリスト」

アンソニー・ファン・ダイク

(1599~1641年)

さて、わたしは長老の一人として、また、キリストの受難の証人、やがて現れる栄光にあずかる者として、あなたがたのうちの長老たちに勧めます。

(ペトロの手紙一5章1節)

